

小中学生の「やりたいしごと」

— JELS2003 報告(2) —

○寺崎 里水 (お茶の水女子大学大学院)

○中島 ゆり (お茶の水女子大学大学院)

1. はじめに

子どもが「やりたいことをしごとにする」というとき、そのやりたいことはどのように湧き起こってくるものなのだろうか。本報告は子どもの職業観、職業意識がどのようにして形成され、将来の希望に結びついていくのかを、子どもの性別や学校でのパフォーマンス、家庭環境との関係から明らかにしようとするものである。

今日、職業観について、学校生活や家庭環境との関連を視野にいたした分析が急務だと考えるのは、次のような状況による。

○学校教育：「主体的な進路選択」がキーワードとなり、それにむけた小学校段階から高等学校段階までの一貫した「キャリア教育」のあり方が模索されるようになった。

○家庭：親の職業が子どもには見えにくいものとなっており、家庭は子どもの職業意識の形成に直接の影響を及ぼさなくなっている。また、近年指摘されている移行期の延長と親子関係の変化により、子どもに対する自立へのプレッシャーが弱まっている。子どもは「やりたいこと」をやるよう水路づけられている。

○政策：若年無業者の増加に対し、キャリア形成の観点からの教育、職業能力開発等の基盤整備の必要性が主張されている（若者自立・挑戦プランにおけるキャリア教育の推進など）。ここでは小学校段階から「系統的・計画的にキャリア教育を推進すること」が必要であるとの認識が示され、青年期の職業意識の問題を幼年期の職業意識にまでさかのぼって考えることの重要性が指摘されている。

○社会：「やりたいこと」をしごとにしようという本がベストセラーになるなど、社会の認識として「やりたいことをしごとにする」ことは望ましいことになりつつある。しかし、そのしごと・職業がやりたいかどうかという個人的な側面だけが強調され、本来しごと・職業の持つて

いる社会的な側面が無視されることは社会にとって望ましいことではない。

○フリーター問題：近年社会問題化しているフリーターの若者について、彼らのパーソナリティに問題を求める言説—「今の若者は甘えている」「しごとをしようという意識が薄い」—が多々みられる。しかし、とりわけ職業観については、彼らがおかれている社会構造との関連でその職業観の差異を捉えるべきであって、決して「職業観の発達の遅れ」というかたちで問題を個人に還元すべきではない。

本報告では、1)子どもは自分の親の「しごと」をどのようなものとして捉えているのか、2)子どもは将来的にどのような「しごと」をしたいと思っているのか、という2点について、年齢段階と個人をとりまく背景（性別、学校でのパフォーマンス、家庭環境）との関係から明らかにする。

2. データの特徴—JELS2003

● 質問と回答方法

質問	回答方法
1) 父親・母親のしごとについて	
あなたは将来、お父さん(お母さん)と同じしごとをしたいと思いますか。	したい/したくないの2択
なぜそう思いますか。理由を書いてください。	自由記述
お父さん(お母さん)はどんなしごとをしていますか。	自由記述
2) 自分の将来の希望について	
家のしごとやお父さん、お母さんのしごととは関係なしに、あなたは将来、どんなしごとがしたいですか。	自由記述
そのしごとがしたい理由はなんですか。	自由記述

(JELS2003)

JELS2003は、日本の青少年の、学力・能力、アスピレーション、進路・職業生活の統計的ポートレートを手に入れることを目的に行われた調査である(より詳細な調査の概要については、耳塚・諸田「学力・学歴・進路」(「0-1 学力と進路」部会)要旨を参照のこと)。ここではそのうち、首都圏 A エリアの公立小学校3年生1118人、6年生1164人、中学3年生1057人を対象に、2003年秋に実施された質問紙調査と学力調査(国語、算数・数学)による集団自計式調査の結果を用いる。

従来の職業観に関する調査では、職業威信に基づいて職業名をあげ、やりたいしごとを選ばせたり、「やりたいか、やりたくないか」「知っているか、知らないか」を選ばせたりする質問のしかたが一般的である。しかし、そもそも子どもは自分のまわりの人々を職業名で把握しているのだろうか。重要なのは、しごとや資格

の名前なのか、それともその内容なのかを考える必要がある。

そこで本報告では、職業を選択するという問題と進路を選択するという問題を区別すること、職業名をあげるといこととしごとを考えると、区別することにした。子どもが、自分の生活世界のなかにある「しごと」をどのように捉えているのか、ありのままに把握するために、自由記述(OA)による回答方法を用いたことに、本調査の特徴がある。質問と解答方法は以下のとおり。

3. 親の「しごと」をどう見ているか

将来の希望進路がそれぞれの職業観に従って定められると仮定すると、まず職業観というものをはどのような形で身につけるのかを考える必要がある。文科省の提唱している「キャリア教育」においては職業的発達段階があると想

●父親、母親のしごとの具体的な回答例

		お父さんはどんな仕事をしていますか	お母さんはどんな仕事をしていますか
① 職種・業種	小3	「えきいんさん」「ダンボールを作っている。」「車のぶ品ず作です。」「くるまおなのおすしごと」「レストラン」「えいぎょうがいしゃ(いろいろ)」「すしやさん」「パチンコ」	「やおやのけいさん」「パンきょうしつのおせんせい」「びょういんでおきゃくさんおなのおすかんごふさん」「おいしそうなたべものをつくるしごと。」「フリビンパブ」「レストランのしごと」
	小6	「プランチックをつくっている?」「コンピュータを使う仕事」「車などのベアリングについて考える人」「倉庫を貸したりする仕事」「昔電気屋 今メッキの工場」「くやく所」「ラーメン屋」	「フラワーアレンジメントの先生」「かんごふさん」「ほいくし」「プログラマー」「ベビーシッター」「学校の先生」「けっこんそうだん所」「製めん店」「ホテル業」「やお屋」
	中3	「ビールびんのふたをつくっている」「▲▲でテレビなどを作っている。」「うんそうかんり」「いんりょうのしゅつか、など」「ようせつ」「市役所で働いている」「ガス関係の仕事。」	「小学校のきょうしゅく作り。」「お弁当をつくっている(おかずをつめている)」「教師」「事務」「ピザなどを作る工場。」「自営業」「児童相談所で働いている。」
② 会社名・その他	小3	「〇〇のかいしゃ」「△△」「××におしごとについている」「ひよけみたいなもの」「パソコン」「ときどきかいしゃの人とパービューキューをしたりします。」「てつものしごと」	「◇◇」「●●のしごと」「ようふくのしごと」「パソコンの仕事」「しゅうじ」「車のぶひん」「パソコン」
	小6	「〇〇」「車の仕事(▽▽)」「コンピューターかんけい」「パソコンかんけいの仕事」「車にかかわる仕事」「何かを作る仕事?だと思ふ。」「物を作る仕事」「よるのしごと」「コンピューター」	「□□」「××へいって仕事」「花をあつかう仕事」「野外」「カメラ」「コンピューターかんけいの仕事」「車の関係の仕事」「しせつ」「お店で」「トラックで」
	中3	「◆◆」「車の特許」「機械関係」「車関係」「きりことか危ないものなどを扱っている」「トラック」「たてものけい」「コンピューターの難しい仕事。」「車」「車のエンジン」	「〇〇」「色々雑務等」「人に伝える・・・。」「パッチワーク」「パソコン関係」「かつおぶしけずつてます」「夜の仕事。」「ひつきぐ」「お店。」「パソコンで打つ。」「お店で働いてる。」
④ 家事・専業主婦	小3	なし	「家のしごと」「家のそうじやせんたく」「せんたくものとか」「そうじとか、パソコンをやっている。」「りょうりを、つくったり、せんたく物などを、ほす」「しゅふ」「主婦」
	小6	なし	「かじ」「家事」「主婦」「家のしごと」「しゅふ。」「主に家事」「家の事をやっている。」「せんぎょうしゅふ」
	中3	なし	「主婦」「専業主婦」「家事」「ふつーのしゅふ」「家事(家にいる)」
⑥ パート・手伝い	小3	「バイト」「くさむしり、アルバイト」「おてつだいみたい」	「ないしゅく」「ぼうろのぺんのないしゅく」「アルバイト」「▼▼のパート」「クリーニングや(ばあちゃんのおてつだい)」
	小6	なし	「ごくごくふうのパートをしています」「薬局のパート」「バイト」「ないしゅく・しゅふ」「おとうさんのしごとをてつだったりいろいろやってくる。」「こうむてんのてつだい」
	中3	「〇〇、アルバイト」	「たぶんクリーニング屋さんのアルバイトかも。」「内職、時々調査員。」「パート」「しゅふ たまにバイト」「機器関連のパート」「父のお手伝い」「専業主婦をしながら時々父の仕事の手伝いをする。」

注) 伏字は具体的な会社名

(JELS2003)

定したうえで現在の若者の勤労観、職業観の未熟さを指摘し小中学校段階からそれらを育もうとしている。それでは現時点での小中学生の職業観はどのようなものであろうか。職業観とはすなわち個人にとって「しごと」とは何であるかという位置づけである。職業観は小中学生であっても、周りの人びとの「しごと」をどのように捉えているかという見方に表されるだろう。

そこで、本報告ではまず小中学生にとって最も身近な大人である親の「しごと」をどのように捉えているかについて考察する。かれらは親の「しごと」をどの程度知っており、どのように理解しているだろうか。さらに、それらの「しごと」をどのように評価しているのだろうか。かれらは親と同じ「しごと」をしたいと考えているのか、それはどのような基準で考えているのか。

「お父さん／お母さんはどんなしごとをしていますか」という自由記述の質問で明らかになったことは、小中学生が「しごと」について多様なレベルで捉えているということである。ここでの問題は、かれらの親がどのような職に就いているかということではなく、かれらが親職をどう捉えているかである。そのため、ここではかれらの回答の傾向から以下のように大きく8つのレベルに区分した。

- ①職種、業種として分類可能な「しごと」名
(具体的な「しごと」の内容を比較的想像可能)
- ②会社名のみ、その他の「しごと」名 (具体的な「しごと」の内容を想像しにくい)
- ③サラリーマン、会社員、OLなど
- ④家事、専業主婦
- ⑤しごとをしていない
- ⑥パート、アルバイト、派遣、内職、手伝い
- ⑦いない、不明、拒否
- ⑧わからない、知らない

①と②の境界は非常に曖昧であるが、ここでは日本標準職業分類または産業分類に分類可能なものを「しごと」の把握状態の一つのレベルと考えることにする。これらの分類は「しごと」の内容を具体的に想像させることができ、かつ他者に説明可能な最低限のことばであるとみなせるからである。同様の理由から会社名は「しごと」の内容そのものを理解しているかどうか分からないので②とした。以上のレベルにしたがって区分した一例を前頁の表に示した。とくに「④家事・専業主婦」において表現のしかたの学年差が明確となっている。

4. 「やりたいしごと」はどう決まるのか

子どもの職業意識の発達を考えた場合、職業についてどのようなことを知っているのかという問題と、職業をどのようにして知るのか、という2つの側面があることに注意が必要である。両者は密接に絡み合っており、子どもが、客観的な職業世界を何らかの意味で主観的に捉えなおしているという点で、個人的に蓄積された職業知識はバイアスがかかったものとして想定される(日本労働研究機構 2003)。したがって、ひとくちに子どもが「やりたいしごと」と言っても、それは子どものそれまでに知り得た範囲の職業について、知り得た限りの知識に基づいて「選択」をしているにすぎない。この意味で、子どもの表明する「やりたいしごと」(「やりたくないしごと」)は、それぞれの家庭環境や学校生活のあり方によって異なることが予想される。

こういった関心から、ここでは小中学生の「やりたいしごと」について、彼らがどのように「しごと」をイメージしているのか、どういう「しごと」を希望するのか、なぜそれを希望するのかを丹念にみていくことにする。

将来やりたいしごとに対する回答について、何かしらやりたいことがあると答えた者を「何かしら答えあり」、まだ決まっていない、何もしたくないと答えた者を「未定・何もしたくない」とし、秘密、内緒などを含めた「分類不能」と「無回答」の4カテゴリーに分けた。学年が上昇するにつれ、「未定・何もしたくない」の割合が上昇している。また、「何かしら答えあり」の者について、その記述を具体的な

●将来やりたいしごとに対する回答状況

	小3	小6	中3
何かしら答えあり	76.7	74.3	67.5
未定・何もしたくない	2.4	5.9	7.5
分類不能	1.1	1.0	0.4
無回答	19.9	18.8	24.7
計	100.0	100.0	100.0
実数	1118	1164	1057

(JELS2003)

●「何かしら答えあり」について、その内訳

	小3	小6	中3
職業名・職種名など	90.5	87.6	63.5
しごとの内容	4.1	10.5	35.2
分類不能	5.4	1.8	1.3
計	100.0	100.0	100.0
実数	857	865	713

(JELS2003)

職業名や職種で回答した者（「職業名・職種など」と、より漠然としたしごとの内容やしごとに対する希望で回答した者（「しごとの内容」とに分けた場合、学年が上昇するにつれ、より漠然とした希望の者の割合が上昇している。

下に示したように、具体的な職業名や職種で回答した者と、より漠然としたしごとの内容やしごとに対する希望で回答した者とは、なぜそのしごとが

したいかという理由について、大きな違いを見出すことはできない。ここから職業や職種名を具体的にあげられるということをもって、その子どもの職業観が十分に発達していると安易に結論づけることの難しさがうかがえる。

5. 考察

（発表は当日配布レジュメに沿って行います。）

●「職業名・職種など」に分類した回答の例

やりたいしごと		その理由
小 3	マッサージやさん	ままだにマッサージをやっておいて「じょうずだね」と言ってくれたからマッサージをしてたのしい
	ウェイトレス	みんなにこはんやのみものをとどけられるから。
	そうりだじん	ゆうめいになりたいから
小 6	幼稚園の先生	私は子供が大好きで一緒にいると幸せだから。
	消防士	人を助ける仕事をしたいから
	くんれんし	犬が好きだしなにか教える事が好き
中 3	看護師	人の心に残るような事をしてあげたいし、人の笑っている顔を見たいから。何か大切な事が学べるような気がするから。
	自動車の整備士	物を直したりするのが好きだから。
	普通のサラリーマンでよし。	やりたい仕事がないから。
	公務員	リストラなどによるクビがないから
	医者になりたい	手に職をもっていたいから。理科が好きだし、血とかも好きだから。

注) 回答は原文のまま

(JELS2003)

●「しごとの内容」に分類した回答の例

やりたいしごと		その理由
小 3	みんなにやくだつ人	みんなのよるこふかおが見たいから
	カードをつくる人	こどもによるこんでもらえるから
	にもつをはこぶしごと	力がつかから
	お店ではたらきたい。	お店はなんでもいけどかってくれる人がしあわせになってくれるようなお店ではたらきたい。
	もうかる仕事	家庭がらくになるから
	かしごとです	かっこいいしたくましそうだからです
中 3	服かんけいの仕事	服がすきだから
	自分がその時したいコト	自分のため
	工業系や、体をうごかす仕事	デスクワークが、きらいだから。
	個性的で自分のやりたい仕事をした。	人と同じは嫌だから。
	どこかでやとわりたい(高い給料時給1100円以上)	金がなきやいきていけないから
まだハッキリとは決まっていけど人に喜ばれる仕事。	誰かの役に立てたらいいなあと思うから。	

注) 回答は原文のまま

(JELS2003)

■主要な文献

岩崎香織 2004「子どもの家庭状況・価値意識・自尊感情」『JELS 第1集 2003年基礎年次調査報告(児童・生徒質問紙調査)』お茶大COEプログラム、pp.57-69
 日本労働研究機構 2003 資料シリーズ No.138『小学生の職業意識とキャリアガイダンス』
 大久保幸夫編著 2002『新卒無業』東洋経済

新報社
 下村英雄 2002「フリーターの職業意識とその形成過程—「やりたいこと」志向の虚実」小杉礼子編『自由の代償／フリーター』日本労働研究機構、pp.75-100
 安田雪 2003『働きたいのに…高校生就職難の社会構造』勁草書房